

【地域公共交通計画とは】

- 地域公共交通の活性化と再生を一体的かつ効率的に推進していくために定められた「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の中で定められている法定計画のことです（策定は努力義務）。
- 「地域公共交通計画」は、地域公共交通に関する基本となる計画（マスタープラン）となっており、地域の移動手段の確保、維持、改善に向けた方針や具体的な取組みを記載します。

【計画策定の背景】

- 熊取町では、これまで自然と都市が調和したコンパクトな町域に市街地を形成し、都市機能や住環境の整備を進めるなどのまちづくりを進めてきました。その結果、充実した公共交通など、より良好な住環境が確保されたまちとして発展してきました。
- 一方で路線バスの利用者減少やバス事業者の経営悪化、運転手の高齢化・担い手不足をはじめ、ひまわりバス事業の費用増加による町の財政負担の増加、人口減少など、公共交通を取り巻く環境は年々厳しさを増しています。

【計画策定の目的】

- 熊取町の地域公共交通は住民生活を取り巻く環境の変化を鑑みて、コンパクトなまちの更なる発展のためには、住民の生活に必要な移動を考慮した地域公共交通のあり方について今一度見直すことが重要となります。
- 地域公共交通のあり方を再検討し、住民や本町に関わる人々にとって利用しやすい、持続可能な地域公共交通体系を構築するため、熊取町の地域公共交通のマスタープランとなる「(仮称)熊取町公共交通計画」の策定に向けた取組を進める必要があります。

熊取町を取り巻く現状（一部抜粋）

- 平成22年までは人口増加が続いていましたが、以降減少傾向にあり、令和32年には約3.3万人にまで減少、高齢化率も約38%となることが想定されます。
- 熊取町における移動手段の約47%が自動車での移動であり、移動は自動車を中心となっています。
- 地域公共交通の利用状況を見ると、ひまわりバスは新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和2年度を除けば、年々増加している一方で、鉄道、路線バスにあっては令和2年度以降、約1～2割程度減少しています。
- ひまわりバスには年間4,000万円以上の費用が投じられており、運行経費が年々増加傾向にあります。
- 令和3年度に実施した住民調査アンケートによると、ひまわりバスの逆回り、駅乗り入れ運行に対しては、いずれもひまわりバス単体の利用における住民、個人の利便性向上を望む声と対極的に公共交通全体の役割分担及び公費削減等の経済効率化を求める意見となった。

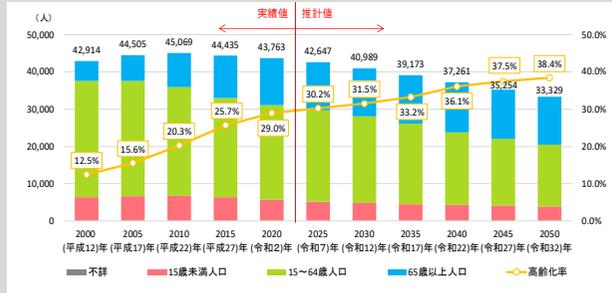


図 熊取町の人口推移

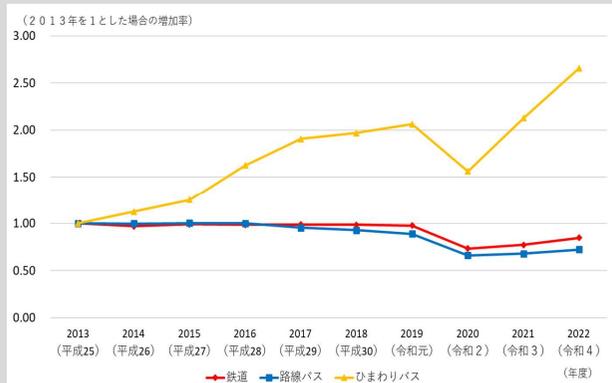


図 2013年の利用者数を1とした場合の各年利用者数の増減率の推移

【本町における地域公共交通の課題】

各公共交通機関による持続可能な地域公共交通ネットワークの維持・形成

- 人口減少や新たな生活スタイルの変化によって、地域公共交通の利用者数は、今後、徐々に減少していくことが想定されます。また、運転手の担い手不足によって地域公共交通を取り巻く状況は厳しくなると考えられます。
- 町内外への移動が多いことから地域公共交通の維持・形成が必要不可欠です。

各公共交通機関の連携・適切な役割分担

- 現在の地域公共交通ネットワークは路線バスとひまわりバスの大部分が重複しています。
- 事業者間の競合は地域公共交通の衰退につながります。
- 各公共交通機関が連携し、それぞれの役割を明確にし、目的に応じたサービスの提供や利用促進が求められます。

地域公共交通の更なる利便性の向上

- 本町は大阪都心部へのアクセスが良く、町外へ運行している地域公共交通へのアクセス性の向上は本町のまちづくりにおいて重要な要素の一つです。
- 高齢化が進んでいる中で「買物弱者」「ラストワンマイル問題」等の移動困難者が増えている中で特定のニーズに対応した移動手段の確保が必要です。
- より利便性の高い移動環境の構築を検討することが求められます。

地域公共交通を移動手段として選んでもらえるための取組の推進

- 町民の地域公共交通の利用頻度は少ないです。
- 地域公共交通を維持していくためには住民にその有効性を認知してもらうとともに、実際に利用していただくことが重要であり、移動手段として地域公共交通が選ばれるための情報発信等を進めていくことが求められます。

【目指す地域公共交通の姿】
だれもが安心して、快適に移動できる 持続可能な公共交通の形成

【計画の基本方針】

各公共交通機関の役割を果たすことによる地域公共交通ネットワークの維持【維持・役割分担】

- 交通事業者と連携し、路線の維持や担い手の確保に取組みます。また、それぞれの各公共交通機関の役割を明確にし、役割に即した運行サービスの見直し、構築に取り組みます。

地域公共交通を利用しやすい環境の構築【利便性向上】

- 既存の地域公共交通の利便性向上を目指します。また、新たな地域公共交通サービスについても検討することで本町のどこに住んでも安心して地域公共交通を利用できるような環境整備に取り組めます。

まち全体で利用できる地域公共交通の仕組みの構築【魅力向上・情報発信】

- 地域公共交通に関連する情報発信はもちろん、観光施設や商業施設といった他の分野との連携について積極的に検討、実行し、日々の移動手段として地域公共交通が選ばれるよう、地域公共交通の魅力向上に取り組めます。